

中日ニュース

シネスコ版

自記隊救子陸路-島根郡原良町-8/10
 ス-の文いかに娘を乗道-札幌-7/10 (本編トッパ追加)

道新 16161
 道新 16246
 新愛知 16164
 中口新 16871

本編同

No. 4 1 1 36.12. 1

下らかき迎之張おトラ-島根 松雲 10/10 (本編トッパ追加)

一、許すまじ"走る凶器"

—福島、東京、愛知

年毎にふくそうする日本の交通事情。然しその反面、何等の進歩も見せない道路行政が今日の交通地獄をもたらし、而も相次ぐ惨事を誘発しているのです。

一日平均四十人、多い日には五十人が死亡。而も許せないのは、おのれの過失の責任を逃亡によって免れようとする悪質な犯罪です。

そこには憎むべき人命軽視の風潮さえ見ることができるとは、それというのも由来わが国には、これを取締るきびしい罰則の規定がなく、捕まつた違反者もただ運が悪かつたとうそぶく程度、法を犯した罪悪感など微塵もないということです。

而も、ささやかな罰金で、罪はろぼしができるという制度自体が交通モラルの徹底を妨げているといえるようです。そのうえ、遺族へ支払う損害賠償も法律で決められた五十万円が最高。後は当事者の力関係によるといわれ、結局ここでも被害者は「ひかれ損」の悲運から救われないうのです。

こうした悲劇を背景に、ようやく各地に「交通安全都市」の宣言が見られるようになりました。

愛知県一宮市では市長を先頭に町ぐるみの自衛手段。謂ば非力な政治へのレジスタンスでもあるのです。ところがそうした市民の情熱にひきかえ、政府にあるのは各省の次官からなる交通対策協議会のみ。而も高度成長を唱えながら、路面対策はノー・コメントという淋しきです。こうした行政のアンバランスが刑事政策の貧困と併せて"走る凶器"の横行を許し、新たな社会不安をかもし出しているのです。

カメラスケッチ

二、野菜騒動記

—山形、埼玉、東京

台風災害による品薄とやらで、昨今の野菜の高値は驚ろくばかり、白菜も去年の十倍とあってはオンシツコどころではありません。産地値段は市価の三分の一。卸売業者、仲買人、八百屋と幾重もの手を経るうちに三倍にもはねあがってしまうのです。

高値をはやすセリ人、ノイローゼ気味の八百屋、そして、わが世の春をうたう仲買人の大将と、市場は悲喜交々の相場風景をみせていますが、高値のカゲで東京近在の担ぎ屋は米から野菜に転向し大変な繁昌ぶり。

そうかと思えば、市価の半値で白菜を売る川越の農業高校生のリヤカーに主婦が殺到するなどてんやわんやの野菜騒動をくりひろげています。

626 5/10 337